

Title	思春期リプロダクティブ・ヘルスにおける国際協力のあり方：カンボジアの青少年に対する性意識調査を手がかりとして
Author(s)	池上, 清子
Citation	大阪大学, 2008, 博士論文
Version Type	
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/49153">https://hdl.handle.net/11094/49153</a>
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 <a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉</a> 大阪大学の博士論文について <a>〉</a> をご参照ください。

***Osaka University Knowledge Archive : OUKA***

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

氏名	いけがみきよこ 池上清子
博士の専攻分野の名称	博士（人間科学）
学位記番号	第 21716 号
学位授与年月日	平成 20 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当 人間科学研究科人間科学専攻
学位論文名	思春期リプロダクティブ・ヘルスにおける国際協力のあり方—カンボジアの青少年に対する性意識調査を手がかりとして—
論文審査委員	(主査) 教授 中村 安秀  (副査) 教授 内海 成治 教授 堤 修三

### 論文内容の要旨

世界的にもまたカンボジアでも、10 歳—24 歳の青少年人口は歴史上最多となるだけではなく、情報やサービスが届きにくい社会的弱者でもあることから、性の健康の観点からはハイリスクのグループとみなされる。

本研究のテーマは、以下の 2 点である。(1)カンボジアの青少年が持つ性に関する知識のレベル、その内容、影響を受ける変数などに関して、特に性に関連する重要な 2 つの課題である HIV 感染と望まれない妊娠の予防に焦点を当てながら、調査分析と考察を試みる HIV 感染や望まれない妊娠が予防可能であることを知ることが、青少年の個人レベルでの行動変容へとつながる第一歩だからである。(2)分析と考察に基づき、青少年プログラムに関して青少年の当事者意識や参加の度合いを測る枠組み構築を試み、その枠組みを提言すること、さらに、日本政府開発援助による保健分野のミレニアム開発目標への支援を明確にするための方法として、その分類コードを提案する。

研究論文では、まず、性の健康の観点からリプロダクティブ・ヘルスの歴史と現代的な潮流を概観した後、カンボジアでのフィールド調査の結果を分析・考察し、最後に国際協力のあり方への提言をおこなった。

国家倫理委員会の承認を待って、カンボジア家族計画協会との協力の下で調査を開始した。面談形式の聞き取り法を採用し、選択回答式と複数回答式を組み合わせた。対象地区はタケオ州トリアン地区のプレイ・スロエク・コミュニケーション全体である。対象者はこのコミュニケーションに居住する 10 歳から 24 歳の青少年の中から無作為抽出を行い、適正なサンプルサイズにあう 356 人とした。

HIV 感染予防の知識を計る目安として採用したのは、HIV 感染経路に関する知識であり、女性のほうが男性よりも知識をもっていることがうかがえる。検定によると、注射針を共用しない、感染者の傷口や血液や体液に触らない、セックスする時はいつもコンドームを正しく使うなどの予防に関する知識と性別との関連において、有意な関連が認められた。また、望まれない妊娠を予防する知識を計る目安としては出産間隔をあけるための避妊法を採用した。ここでも、検定の結果、「ピル」「コンドーム」「ホルモン注射」の項目との関連で特に有意差が認められ、近代的な避妊法では女性の知識の量が有意に高い事が認められたのである。男女別の解析では、女性の方が、HIV 感染の予防と望まれない妊娠の予防ともに知識の量が多い事が明らかになった。

次に、目的変数として、HIV 感染経路の 8 つおよび避妊法の 10 つの質問に、正解を 1 点、不正解を 0 点とした回答スコアと設定し、説明変数は、回答スコアに影響を及ぼす可能性が高いと予測される回答者背景情報の項目を選択

し、回帰分析を行った。選択した説明変数は、年齢区分（10-14歳、15-19歳、20-24歳）、性別、就学状況（就学中かそうでないか）、ACCY（以前、思春期保健のプロジェクトを実施していた村とそうでない村）、結婚状況（未婚と既婚）、父親の読み書き能力と母親の読み書き能力（読み書き両方が出来る場合とそれ以外）の7つとした。解析対象者は、目的変数が算出でき、解析に使用する変数が全てそろっている289名とした。

回帰係数を算出し、各説明変数に分散分析を行った結果、HIV感染経路の回答スコアを増加させると推定される変数は、15-19歳および20-24歳の年齢層、女性、就学中であった。避妊法の回答スコアを増加させると推定される変数は、15-19歳および20-24歳の年齢層、女性であった。避妊法の知識に関して、就学中の回答者の方が、就学していない回答者よりもスコアが上がると推定されたが、分散分析の検定結果は有意ではなかった。

HIV感染経路に関しては、父親の読み書き能力が有意になる一方で、母親の読み書き能力は有意とはならない。避妊法に関しては、父親・母親の読み書き能力ともに有意とはならない。

回帰分析では、再HIV感染経路と望まれない妊娠の予防とも、年齢区分や性別、就学状況などとの相関がある事が示唆された。しかし、重相関係数が低いことから、回帰分析では明らかにするのが難しい関係、また交互作用などが存在すると考えられる。そこで、回答者スコアと回答者背景情報のさらに詳しい関係を明らかにするために樹形モデル解析を行った。説明変数は、回帰分析時と同様に7項目について、各々を2つの選択肢（年齢のみ3つ）とした。解析の結果は、HIV感染経路、避妊法とも、まずは年齢と関係し、10-14歳の知識量が低いことを示した。

さらに、解析結果は、15-24歳ではHIV感染経路の知識は就学との関連が強いことを示唆している。この年齢層は、中等・高等教育に就学中であることから情報へのアクセスが良いことが考えられ、また、何らかの学校教育の中で知識を習得していると推測される。文化圏が異なるアフリカのザンビアやボツワナでも同様な先行研究の結果が報告されている。

加えて、両親の読み書き能力との解析結果は、父親の読み書き能力がある場合には、HIV感染経路に関しては親の読み書き能力と、望まれない妊娠の予防には母親の読み書き能力との関連が強いことが推測される。特10-14歳の年齢層に対して、HIV感染経路に関しては、父親の読み書き能力が、望まれない妊娠の予防に関しては、母親の読み書き能力の影響がある。

この分析に基づき、以下の考察と提言をおこなう。

- ①男性の理解と関与を促すことが重要であり、男性の関与や当事者意識を推進することが必要である。
- ②10-14歳の年齢層の青少年に対する、年齢に合った予防教育や情報が必要であることが推測される。
- ③青少年本人の教育レベルと性に関する知識とに相関関係が見られることから、誰でも情報にアクセスできる環境で知識を定着させることができ、教育レベルが上がることが重要であり、また、学校教育のなかで性に関する教育が必要である。
- ④特に望まれない妊娠の予防に関しては、10-14歳の青少年には、母親の読み書き能力の影響があることから、母親への啓発活動も重要である。

以上の分析や考察を踏まえ、国際協力の一環として青少年の健康を考える際、その支援に関して以下の2点を提言する。具体的な提言にした理由は、現場でもすぐに使えることを目指したからである。(a)一般的に、社会的弱者への支援は当事者意識や参加を促進する支援が望ましい。それは、社会参加により主体的な生き方が期待される人間中心の開発とも共通する。そこで、具体的に、参加の成熟度を測る枠組み・指標を構築することを試みた。6段階に区分し、その成熟度を測るために、現場で使用できそうな質問も検討し段階ごとに含めた。今後の課題としては、青少年の個人及びユースグループとしての組織の、エンパワーメント指標を、測定可能なプロセス指標として区分していくことである。(b)青少年のHIV感染を防ぐことや望まれない妊娠を予防することは、母子保健、RH、安全な母性、感染症などの枠組みから、とらえる必要がある。つまり、援助スキーム別ではなく課題別・分野別のアプローチが重要となる。このためには具体的に、子どもの健康、妊産婦の健康、感染症対策のように、MDGs 4、5、6との対比が可能な分類コードを提案した。ここでも、コードに含まれる内容をより具体的に示した。

今後のチャレンジとしては、性に関する知識が、行動変容につながったかどうかを調査し分析することである。そ

の際、青少年が安全な性行動を主体的にとれるように、自らの選択を変容させる環境整備に向けた支援が、国際協力にとっても重要であると思われる。

### 論文審査の結果の要旨

本論文は、カンボジアの青少年に対する性意識調査に基づき、思春期リプロダクティブ・ヘルスにおける国際協力のあり方を考察したものである。性の健康の観点からリプロダクティブ・ヘルスの歴史と現代的な潮流を概観した後、カンボジアでのフィールド調査の結果を分析・考察し、最後に国際協力のあり方への提言をおこなった。

タケオ州トリアン地区において、コミュニオンに居住する10歳から24歳の青少年のうち、無作為抽出を行った356人に対して、面談形式の聞き取り調査を行った。HIV感染経路および避妊法に関する質問に関する回答スコアを目的変数とし、年齢、性別、就学状況などを説明変数とした。

青少年本人の教育レベルと性に関する知識の間に相関関係が見られた。また、HIV感染経路の回答スコアを増加させると推定される変数は、15-24歳の年齢層、女性、就学中であり、避妊法の回答スコアを増加させると推定される変数は、15-24歳の年齢層、女性であった。これらの結果より、男性の理解と関与を促すことが重要であり、10-14歳の年齢層の青少年に対する予防教育や情報提供の必要性などが明らかとなった。

以上の分析や考察を踏まえ、当事者意識や参加を促進する支援を具体化するために、参加の成熟度を測る6段階の枠組み・指標の構築を試みた。また、青少年のHIV感染予防や望まれない妊娠の予防のために、子どもの健康、妊産婦の健康、感染症対策などの課題別・分野別のアプローチを実施するための分類コードを提案した。

本論文は、国際協力分野では種々の試行が始まったばかりの思春期リプロダクティブ・ヘルスに焦点を当て、青少年当事者の参加および援助側のアプローチのあり方にも示唆を与える先駆的な論文である。カンボジアにおける青少年に対する性意識調査の結果は、先行研究の乏しいカンボジアでの貴重な成果として今後の活用が期待される。本研究の成果はリプロダクティブ・ヘルス分野での国際協力学の発展に大きく寄与するものであり、博士号授与に値すると評価できる。